



会社概要

IIJ(インターネット イニシアティブ)は、インターネット接続サービス及びネットワーク関連サービスの提供、ネットワーク・システムの構築・運用保守、通信機器の開発及び販売を行う企業としては1992年に設立された。

日本の商用インターネットを切り開いてきたIIJグループは、持続的なイノベーションこそが新たな産業を創出できるのだという強い信念を持って事業を展開している。インターネット接続事業で培った高度な技術力を基盤として、またお客様のあらゆるネットワーク利用の要求にワンストップで応えていくために、インターネット接続サービスからアウトソーシングサービス、システムインテグレーション、アプリケーションに至るまで、総合的なネットワーク・ソリューションを、高品質・高信頼性という創業以来の基本方針を守りながら提供している。

業種

インターネットのインフラサービス

課題

- ・ 顧客企業のセキュリティの強化
- ・ ゲートウェイでのアンチウイルス機能の提供

カスペルスキーのソリューション

Kaspersky® Anti-Virus for Proxy Server

結果

- ・ 高いウイルス検知能力、ネットワークのパフォーマンスを低下させない性能を有するカスペルスキーのアンチウイルスソフトの導入により、顧客企業にとって満足いくゲートウェイサービスが提供可能になった。

ケーススタディ | 株式会社インターネットイニシアティブ (IIJ)

業界屈指のインターネット関連の技術とサービス開発力を持つIIJが「IIJセキュアWebゲートウェイサービス」で採用したカスペルスキーのアンチウイルス

株式会社インターネットイニシアティブ(以下IIJ)は、日本でインターネットの黎明期から、インターネットに関わるビジネスを展開している。IIJといえば、インターネットサービスプロバイダー (ISP) の草分けとして記憶しているユーザーも数多くいるだろう。現在では、インターネット接続サービスだけでなく、アプリケーションサービス、セキュリティサービス、クラウドサービスにシステムインテグレーションまで幅広く、統合的なインターネットソリューションを提供する企業になっている。

IIJは、海外まで張り巡らせた自社バックボーンネットワークを有し、運用してきたことで、IPネットワークにおいて世界でも有数の技術力を有している。日本には、まだ存在しなかったインターネット事業をゼロから作り上げてきた技術力の高さや実績は世界的にも高く評価されている。

「インターネットに繋がることで、様々な可能性が広がることからインターネットが爆発的に普及しました。しかし、ビジネスにおいて必須となるインフラとして普及するにつれて、新しい問題が持ち上がってきました。とりわけ問題となってきたのは、社員が業務外の私的利用としてWebアクセスを行うこと、また、その私的利用でウイルス等に感染するリスクが高まってきたことでした。IIJ マーケティング本部 プロダクトマーケティング部長 神田 恭治氏は当時の状況をこう振り返る。

安全安心なインターネット活用環境を提供することがIIJの使命であり、これらの新たな脅威への対処は最優先の事項として位置付けている。

セキュリティ上の課題

IIJでは、2003年4月から私的Webアクセス利用への対策として「IIJ URLフィルタリングサービス」というサービスを提供していた。このサービスは、企業のユーザーがどのようなWebサイトにアクセスしたかのログ取得、またどのWebサイトへのアクセスを制限するかなど、URLフィルタリング機能が中心だった。

しかし、Webサイトにアクセスしただけで、感染してしまうウイルスが登場することで、クライアントPCのウイルス対策に加えゲートウェイにおける対策が重要視されるようになった。

IIJ マーケティング本部 プロダクトマーケティング部 プロダクトマーケティング2課 プロダクトマネージャーの大野 慎吾氏は、「IIJセキュアWebゲートウェイサービス」開発当時をこう振り返る。「IIJとしても、以前のURLフィルタリングサービスを機能アップして、新しいサービスとして提供するとき、ウイルス対策が必須になると感じていました。そこで、各社のウイルス対策ソフトの検討を2008年頃から始めました。」

まず、サービスを検討する上で、自社内にアプライアンスを導入した場合の運用負荷や運用コストの増大、新たな脅威に対する対応の手間等の課題を解決できるものを作りたいと考えた。そして最終的には運用コスト削減と高いセキュリティ性の確保を実現したクラウド型サービスの「IIJセキュアWebゲートウェイサービス」を2009年2月から提供することになった。ここでポイントになったのが、どのアンチウイルスソフトを採用するかということだった。

IIJとしては、高い検知率と性能を持つウイルス対策ソフトを採用したいと考えていた。そのため、高いセキュリティに加え、ネットワークのパフォーマンスを低下させないソフトウェアの採用が必要だった。

ソリューション

「新しいサービス (IIJセキュアWebゲートウェイサービス) を提供するにあたって、技術部門が各社のウイルス対策ソフトを検証しました。その中でも、最も高い検知率とパフォーマンスを示したのが、カスペルスキーのウイルス対策ソフトでした」(神田氏)

評価が進んでいた2008年当初、カスペルスキーといえば、海外では知られたウイルス対策ベンダーだったが、日本国内では知る人ぞ知るといって会社だった。

